

記者会見

川内大綱引をテーマにした映画を作成されたきっかけは。西田「六月灯の三姉妹」が上映された時に、とある懇親会で川内の大綱引も映画にできないかと話があった。僕はまだ見たことがなかったから即答はできなかったんだけど、その年の秋に見てしまったら打たれたというか、難しいという気持ちもあつただけ、どうにか形にしていこうという思いを佐々木監督に伝えたら、監督も即答で引き受けてくれて、そこから動き始めました。



監督の(遺作ではなく)最新作とお話をさせていただきました。

最終的にお別れがちゃんとできてないってのも、もちろんあるんですけど、僕はまだ監督が亡くなったことを受け入れられてないの。だからそういう意味では僕は「遺作」とは言いたくなくて、「最新作」と位置付けさせていただきました。

今年は大綱引が中止となってしまいました。その年に上映となったことについて。

三浦 大綱引は開催されませんでした。映像として残っていることが、来年に向けてのモチベーションを保つ一つの助けになってくれたらなあと思います。



先ほどの舞台あいさつでの涙を拭かれる場面はどんな思いで。比嘉 今日と言う日は、晴れ晴れとした心で皆さんに届けたくて、泣くまいかって決めていたんですけど、舞台上から見た客席の皆さんの姿と声援に、こんなにも待ち望んでくれてた



んだなって。言葉はなくても「おかえり」というのが伝わってきたんですよ。なので話してるうちに込み上げてきて、思いが止められなくて泣いてしまったんですけど、悲しい涙じゃなくて温かい涙でした。

薩摩川内市で召し上がった一番印象に残ったものは。

中村 ほぼ毎日行っていたので「綱ごころ」さんのおでんと定番メニューにはない僕らのために作ってくださいました。カレー。大好きになりました。

舞台あいさつで「川内から全国に伝える」との発言に皆さんうれしと感じていて客席からも大声援がありました。どう思われましたか。

三浦 地元の方が大切にしている「大綱引」というものを映画にさせてもらって、その土地で撮った映画っていうのは、その土地の人に愛されたいといけな思っているの、そういう風に言っていたのはうれいすね。

子どもたちも大活躍
オーディションを経て、映画に実際に出演した本市出身の小学生5人にも感想を聞いてみました。



(幼少期) 有馬 武志 後 郷 学 務 教 育 学 校 4 年 後 藤 煌 君

お父さんからオーディションがあると聞いて、受けてみたいなあと思っていました。受かった瞬間、学校のみんなに教えたかったです。かつよく演技しようと思ってる中、監督にうまく教えてもらいました。三浦貴大さんとのあいさつ、握手も思い出です。自分の出演シーンは疲れて寝てしま、残念ながら見れなかったけど、映画には薩摩川内市がたくさん出てきてうれしかったです。特に、以前行った甕島のシー



(幼少期) 有馬 武志 柴 田 瑠 奈 君

は、お母さんから聞いて挑戦してみたいと思いました。受かったと聞いたときはとてもびっくりして驚きました。台風の中の撮影で、ずっと目を開けるのが大変でしたが、とても楽しく貴重な経験になりました。監督から他の作品の話も聞いたり、比嘉さんと写真を撮ったりサインをもらったりして思い出です。映画ができるまで実感はなかったけど、実際にできてみると感動しました。



(幼少期) 中国 典 子 中 野 美 月 君

自分が住んでいるまちが舞台の映画があると聞いてチャレンジしたいと思ってオーディションでしたが、せりふを間違ってしまったので、合格と聞いたときはびっくりしたし、とてもうれしかったです。大綱引のことはあまり知らなかったけど、映画を通じて知ることができたし、知っている場所がスクリーンに出るたうれしかったです。自分の撮影のない日に行ったら監督と一緒に写真を撮ってくれたことが思い出です。



(幼少期) 吉留 鼓 太 郎 君

受かった時には「よっしゃ」と思いました。演技するのは、難しかったです。緊張したけど楽しかったです。監督とは、撮影の合間に綱ごころで、みんなでラグビーを応援したことが思い出です。優しくとてもいい人だったので亡くなって寂しいけど、佐々木組のタオルをもらってとてもうれしかったです。映画は笑いや涙のシーンもあつても素晴らしい映画なのでたくさんの人に見てもらいたいです。



友人の子も役 原 愛 葵 君

お父さんが大綱引で大将をしたことがあったので、この映画のオーディションを受けたいなと思いました。撮影の時は、初めて緊張しましたが、実際の撮影現場は夢みたいだなと思いました。自分の頑張りが映画の中で見れたのでとてもうれしかったです。

思いの込もった映画を皆さんの心に残る映画に

観光・シテイセールス課 堀之内 寛郎 (Horiuchi Hirohiko)



大綱引をテーマにした映画の撮影が決まって市職員の協力もほしいというお願いがあり、これは市として観光客の増加やプロモーションのチャンスになると考え、関わらせていただきました。地域の皆さんやスタッフの方々はもちろん、観光・シテイセールス課のみんなで協力してまさにワンチームでこの映画を作り上げたということがとてもうれしかったです。

さまざまな人の思いが込められた映画ですので、佐々木監督の遺作ではなく最新作として、佐々木ファンにはもちろんですが、市民の多くの方

本市出身の俳優 小山 悠さん 独占インタビュー



おやま ゆう 小山 悠 モデル/俳優 1993年11月生まれ 薩摩川内市出身 映画「あんた、誰だよ」主演 朝ドラ「エール」 大河ドラマ「いだてん」、他

この映画のキャストに選ばれたきっかけは。

小山 佐々木清監督の「陽はまた昇る」を見て、その温かい世界に心酔して、必ずこの監督の映画に出たいということがスタートでした。その後、監督が講師を務めるワークショップに参加させてもらった後に、薩摩川内市を舞台に映画を撮影するという情報を聞いて直接連絡を取らせていただきました。川内大綱引保存会の方や、「綱ごころ」の皆さまからも監督に僕のお話をしていたらいいこと、プロデューサーの西田さんと父に共通の知り合いがいたということもあり出演させてもらう運びとなりました。

二重、三重のご縁がきっかけで参加させていただいた作品でした。

出演が決まった時の気持ちと実際に出演された感想は。

小山 尊敬する監督の作品と

実際に映画を見て皆さんが知っている風景が、プロの人たちからこういう風に見えるんだ、物語になったらこんな風になるのかなど、違う視点から見て感じてもらえたら。そして、それをいろんな人に口コミで広めて映画を知ってもらえたら。自分の住んでいる町が映画になることは、そうそうないと思います。なので、市の皆さんにはこの映画を自慢できる素材として育ててもらえたらと思います。



小山さんは、「劇場版仮面ライダーゼロワン REAL TIME」にも出演している、今、大注目の若手俳優です。これからは彼の活躍に目が離せません！

追記

堀之内G員は、撮影期間中、市のフィルムコミッション事業担当としてほぼ付きっきりで撮影スタッフと共に映画に携わり、撮影許可や関係者への連絡に汗を流し、監督から全幅の信頼を寄せられていました。

映画に登場する金井勇太さん 演じる、観光・シテイセールス課職員、竹之内俊郎の名に彼の存在を垣間見ることができ

つなごい INFORMATION

1 特別上映会&舞台あいさつ決定！

松本若菜さん、升毅さん、朝加真由美さん、小山悠さん、西田聖志郎さんが登壇予定！！

時／1/17(日) ▶第1部=11:00～▶第2部=14:00～

所／SSプラザせんだい 料金／1,000円

前売券販売所／薩摩川内市観光物産協会本店、川内文化ホール

問合先／株式会社パディハウス ☎03(3385)2256

※販売所によっては、売り切れの場合がございます。ご了承ください。

2 1月30日(土)から1週間、ガーデンズシネマ(鹿児島市マルヤガーデンズ7階)でも上映決定！

3 5月からは全国公開がスタート！